



田原 実
議員

市街地の災害対策や空き家問題などの諸課題と市の対応について

質問

過去に例のない集中豪雨などによる浸水・洪水被害が全

国で発生しているが、背後に傾斜地がある人口の多い地区での地すべり災害への対応は。また、空き家の屋根瓦が落ちそうになっているなど、通学路への落下が心配される箇所への対応は。

市長答弁

災害対応については、休日・夜間を問わず、消防本部において情報収集を行い、状況に応じて職員や消防団員を招集し、危険箇所の警戒等の体制をとっている。土砂災害危険箇所は、国、県が事業主体と



伊藤 文博
議員

総合計画基本構想、基本計画、実施計画の策定について

質問

現在の基本構想の最終年度は平成28年度であり、次の総

合計画を充実したものにしていくためには、方針を早く決定しなければならぬが、基本構想、基本計画、実施計画の枠組み、策定スケジュールの計画は。また、市全体のあらゆる計画の関連を意識した、市民にも分かりやすい作り方が必要と考えるが、いかがか。

市長答弁

現段階では、基本構想、基本計画、実施計画の構成により、平成27年度からの2か年で基本構想、基本計画を策定する考えである。

新幹線開業への対応(大系線の活用と沿線都市との連携)について

質問

当市が行ってみたいまち

なって土石流・がけ崩れ・地すべり防止施設の整備を計画的に実施している。管理不全な建物の取り扱い扱いは、基本的には所有者自らの責任において、適正な管理をお願いしている。

市長答弁

JRとの協力、沿線都市との観光連携についてはどうか。また、具体策を作り実行するシンクタンクはどこか。

と評価されるためには、旅の目的が糸魚川となるような仕組みづくりが求められる、その大きな柱となるのが、沿線都市と連携した大系線活用である。

沿線都市とは、北アルプス日本海広域観光連携会議でお互いが持つ観光資源を活用するなかで、誘客を促進する取り組みを進めている。具体策は、鉄道事業者と沿線市町村、住民、鉄道利用者が、それぞれの立場で協力し、知恵を出し合うことが必要であると考えている。

子ども一貫教育方針の実施状況、進捗状況について

質問

子ども一貫教育基本方針、基本計画を定めて5年が経過しているが、中学校単位や各

総合計画は各種計画や施策の基本となる市の最上位計画と考えており、各種計画との関連についても十分配慮して策定作業を進める。

教育長答弁

年代ごとの取組状況と進捗状況について伺う。

健やかな体の育成では、家庭や園、学校と連携を図りながら取り組んでおり、改善がみられることから、効果があまるものと認識している。豊かな心の育成では、道徳の時間や人権教育、同和教育を柱に、体験活動などとの関連を図りながら社会性を育てており、年々不登校児童生徒が減っている状況である。確かな学力の育成では、各中学校区で幼

保、小学校、中学校の連携を進めており、共通した学習ツールや家庭学習の習慣づくりに取り組んでおり、特別支援教育では、幼保と小学校、小中学校の接続、中学校卒業後の進路について各中学校区とも途切れのない支援体制づくりに取り組んでいる。また、ジオパーク学習では、学校支援地域本部事業による地域コーディネーターが各中学校区に1〜2名配置され、地域の人・もの・ことに積極的にいかかわる教育活動に取り組んでいる。